



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊の渡辺です。

今月の集落支援だよりでは、歳の神と冬の生活についてお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当

わたなべ たかひろ
渡辺 貴洋 隊員

歳の神を実施

町内の各地では、1月15日の小正月に合わせて歳の神が行われました。歳の神は、地域によつては「どんと焼き」とも呼ばれるなど、地域によつて呼び名が異なる伝統行事です。最近では、参加する人が集まらないなどの理由から15日より前に行う集落も増えているようです。

今年の中町集落の歳の神には、住民の皆さんのほかに福島大学岩崎ゼミの卒業生7人が参加したことでにぎわいを見せました。参加者は、新型コロナウイルスの感染予防対策を徹底した上で集落を訪れ、以前に集落を何度も訪れて活動していた皆さんと再会し、懐かしさと年月が経つ早さを感じていました。

中町集落では、人足や地域調査など、大学生の受け入れを盛んに行い、今でも交流が続いています。しかし、これまでは卒業生が集落に関わる機会が全くありませんでした。今回、卒業生が初めて集



福島大卒の参加者も歳の神の準備をしました

落を訪れたこともあり、参加者も集落の皆さんも久しぶりの再会を喜んでいました。参加者の中には、学生の頃に集落の屋号看板の設置を提案した人もおり、アイデアが形になったことをとても喜んでいました。

現地参加のほかに、ビデオ通話で3人の大学生と集落をつなぎ、離れていても現地の様子を伝えることができました。歳の神に参加するのが初めてという人もいて、炎を囲んでの風習などの説明に耳を傾けて楽しみ、歳の神の火で焼いた餅を食べながら参加者

全員で今年一年の無病息災を願いました。

これからは、卒業後も集落と関わりを持つ学生が増えていけばいいなと思つていきます。この活動は、町ケーブルテレビや、福島民友新聞でも取り上げられました。集落との交流活動が今後も継続的にできることを願っています。



燃え盛る炎で餅を焼いて食べました

冬の生活について

奥川での冬の生活は2年になります。雪の多さには毎度驚いています。今年も雪が降り積もり、家の前の雪をきれいに片付けるとまではいき



弥平四郎の様子

ませんが、雪かきに追われる日々が続いています。こまめに雪かきをしないと、すぐ屋根の雪が地面とつながってしまします。そんな中で雪かきをしていると、通りがかりの人が声を掛けてくれるのでやる気が湧いてきます。集落を訪問すると、家の前をきれいにしている様子をよく目にします。特に弥平四郎集落では、積雪量が多い集落でありながら、集落の皆さんが自助・共助で家の前をきれいに雪かきしている様子が印象的です。雪かきの時は、屋根からの落雪などに十分注意して行うようにしてください。